

遊 悠

この街の未来の為に

～今私たちに出来ることを～

2024
April
発行

松山商工会議所青年部広報誌

Vol.

YOUNG ENTREPRENEURS GROUP

YEG MATSUYAMA

79

会長
あいさつ

第19代会長 岡部純二

(株)クロス・サービス

これまで私達を牽引して頂いた諸先輩方、支え育て頂いた松山商工会議所、今年度ともに活動する会員の皆様に感謝申し上げます。YEGは、祭りやイベントによる地域の活性化、会員の学びと交流を経て、地域に必要とされる青年団体へと今まさに変革の最中であり、企業の繁栄と地域の活性化を両輪で体現してこそ、松山商工会議所の青年部であると考えます。未曾有の災害や未知のウイルス、加速度的なデジタル社会の流れ、取残されまいと必死の中小企業経営。少子高齢化と地方の衰弱化。プラス要素が余りにも少なく感じる今だからこそ、この街の若手経営者たちが地域と自分達を奮い立たせる必要があり、そのステージがまさに松山YEGです。多くの気付きと学びを得る研鑽、繋がり、強さを活かし、個の成長を業の成長に繋げ、地域に愛され必要な団体となる為に、令和6年度は、根を張る総務・未来創造・どこでもドアへ松山の未来と繋がる～・販路拡大・広報・サステナ・交流・with Fの8委員会にて活動致します。YEGが成すべき事は、「地域のリーダーの継続的な輩出」です、リーダーとは会員の皆さんです。自企業、松山YEG、地域の為に、心を寄せて共に活動して参りましょう。



執行部 紹介

直前会長
野本謙輔

南予プロバン (株)



副会長
根を張る総務委員会
未来創造委員会
戸田恵介

松山酒販 (株)



副会長
どこでもドア委員会
販路拡大委員会
長岡広城

(株)カンセイ



副会長
広報委員会
サステナ委員会
高岡勇吉

(株)石材振興会



副会長
交流委員会
with F 委員会
中川和則

灼ばた鍋 正夢



監事
安永孝徳

(有)イノセント



監事
萩野貴史

萩野鉄店 (有)



専務理事
武智慧

(株)和光ビル
サービス



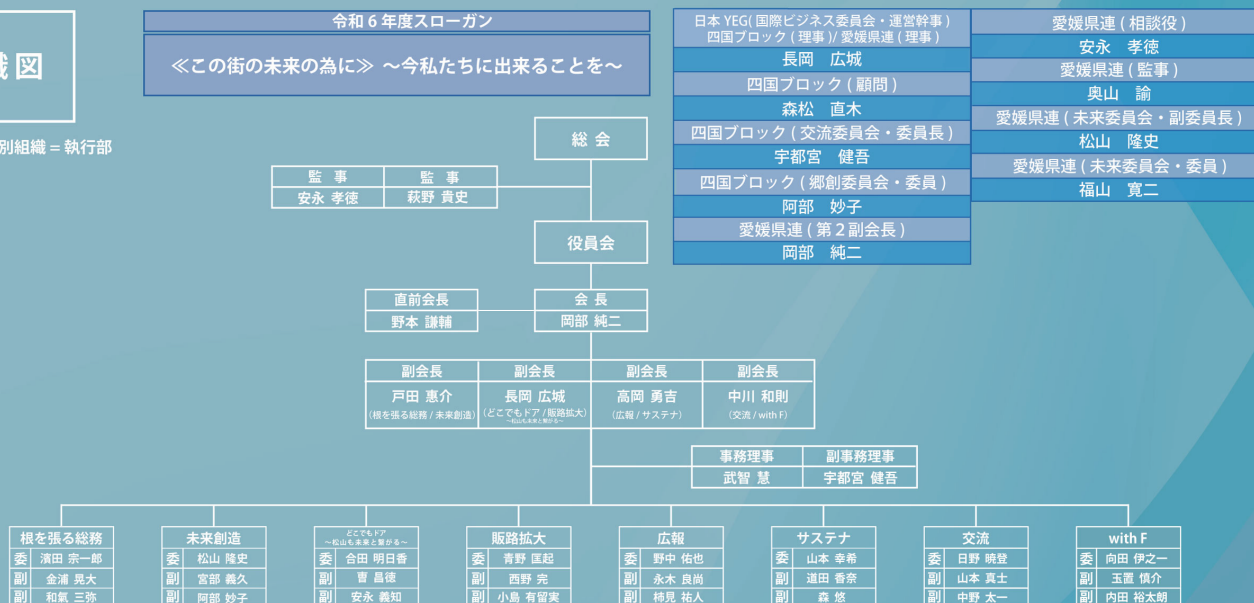
副専務理事
宇都宮健吾

(有)イフ・ソリュー
ション四国



組織図

※災害時特別組織 = 執行部



年間スケジュール

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体事業	日本YEG	委員会第14回(注)・総会 委員会第15回(注)・総会	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会
	四国ブロック YEG連合会	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	愛媛県 YEG連合会	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	岡山・三河 岡山県連	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	岡山・三河 岡山県連	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	岡山・三河 岡山県連	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	岡山・三河 岡山県連	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	岡山・三河 岡山県連	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	岡山・三河 岡山県連	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	岡山・三河 岡山県連	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
委員会事業	根を張る総務	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	未来創造	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	どこでもドア ～松山の未来と繋がる～	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	販路拡大	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	広報	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	サステナ	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	交流	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	with F	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	根を張る総務	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会
	未来創造	委員会第15回(注)・総会	委員会第16回(注)・総会	委員会第17回(注)・総会	委員会第18回(注)・総会	委員会第19回(注)・総会	委員会第20回(注)・総会	委員会第21回(注)・総会	委員会第22回(注)・総会	委員会第23回(注)・総会	委員会第24回(注)・総会	委員会第25回(注)・総会	委員会第26回(注)・総会

01 根を張る総務委員会 ・総会、例会の運営・規約、内規の見直し・手帳、名簿、名刺の作成・各種ルールの見直し



委員長 濱田宗一郎
㈱クリーン・メンテナンス・エッセツ



副委員長 金浦晃大
サンゴデザイン



副委員長 和氣三弥
(株)トライアル

根を張る総務委員会では、全ての YEG 会員活動の基盤となる総会・例会事業の運営、規約・内規の見直し、そして手帳・名簿・名刺の作成等に取り組みます。これまでの諸先輩方が築きあげてきた歴史を紡ぎ、受け継ぐべき点やブラッシュアップが必要な点を議論した上でしっかり見極め、規律を重んじた総会運営を行い適切な組織を作り上げていくことで各委員会の活動をサポートします。松山 YEG の活動を未来に継続させて、今の松山の子どもたちが大人になった時に自発的に入会したいと思ってもらえるような団体を目指します。今年度の例会事業については、1つのテーマを決めるのではなく、できる限り多くの会員の意見を取り入れ多種多様な事業を展開し、他の委員会とも積極的にコラボレーションしていきます。それにより、各委員会事業への参加会員を増加させ、委員会レベルでの繋がりを更に強固にしていきます。また、前年から継続する活動として新入会員を既存会員に周知する方法について検討していきます。現状では例会で入会式が行われていますが、例会への参加が難しい会員に対する紹介方法についても検討します。活性化する組織とは、大きな木に似ていると思います。松山 YEG が大きな根を張り、強固な幹をつくり、その先で繋がり枝を伸ばす各委員会が支えあい、たくさんの会員の様々な活動によって花を咲かせる事で組織が成長していきます。当委員会の活動により松山 YEG が地域社会からの信頼を高め、会員企業にとってより価値のある組織になると信じ、1年間委員会一同一丸となって取り組んでいきます。

02 未来創造委員会 ・YEG の活動の検証・今後の松山 YEG の進むべき方向を示す・令和 8 年度の県大会に向けた準備・中期ビジョンの体现を目指す



委員長 松山隆史
サロンド楽



副委員長 宮部義久
社会保険労務士法人アライズ



副委員長 阿部妙子
(株)えにし salon 永

令和 6 年度未来創造委員会のテーマは「繋(つな)ぐ」です。今までの常識がこの数年で変化し、また新しい常識が生まれていく現代。私たちもこれからの時代の波に対応していかなければなりません。これまで諸先輩方が築いてこられた歴史と伝統を忘れることなく大切に、この街の未来の為に今私たちにできることを考え、地域のリーダーとして次代を見据え行動できるよう、これからの時代に合った形に変えて次代へ襷を繋いでいくことが大切です。松山 YEG は令和 2 年度に創立 30 周年の節目を迎え、5 年周期の中期ビジョン「5G-VISION」を策定しメンバー全員が向かう方向を示しました。中期ビジョン策定から 4 年目を迎える今「5G-VISION」に沿った事業を他の単会の事業を調査し参考にしてビジョン策定の礎を築きます。これから先の松山 YEG が目指す未来において必要なものは大切に受け継ぎ残していき、これからの時代に合わないものは適切に変革し、新たな挑戦に積極的に取り組んでいくべきです。そのためには各事業がどのビジョンに沿った事業なのか明確に把握することが重要です。そうすることによって、メンバー全体の意識が同じ方向に向き、各事業の検証もしやすくなり、実施された事業の成果や影響を客観的に評価することによって、これからの方針や計画を効果的に立てることができ、メンバー全体の帰属意識の向上に繋がっていきます。松山 YEG の近い未来には令和 7 年度に新ビジョン策定、令和 8 年度に愛媛県大会松山大会があります。この大切な節目において、未来創造委員会では過去を継ぎ、今を紡ぎ、未来を次代に繋げる活動を展開していきます。

03 どこでもドア委員会

- ・松山市の活性化のために親会事業への参画・未来を担う学生と企業とのマッチング
- ・住みたい町松山の企業や魅力の発信



委員長 合田明日香
(株)Jolie&co.



副委員長 青島徳
(株)愛媛ダスト



副委員長 安永義知
(株)アネスト

近年、社会がますます複雑に多様化し、少子高齢化、地域における連帯感や人間関係の希薄化が進むなど、こどもを取り巻く環境が大きく変化しています。そのような状況だからこそ、こどもたちが自ら試行錯誤し、行動する力や社会に適應する力を持ち地域と関わりをもつことは、私たちが住み暮らす松山の活力を生むだけでなく、未来を担う人材の育成につながります。また同時に、こどもたちの主体的な地域活動への参画意識を向上させ、ふるさとを愛する心を育み、ひいては持続可能な地域社会の実現に寄与することができると考えます。未来はどこにでも繋がっている、どんな自分にもなれる！ということを知ってもらいたい。こどもたちの明るい未来が地域社会の発展にも繋がるとの想いから、委員会名を『どこでもドア委員会 ～松山の未来と繋がる～』としました。将来が見えず夢はかなわないと思っているこどもたち。生まれ育った街に関心がもてないこどもたち。そんなこどもたちが未来に希望をもち、地域への誇りや愛着を深めるためには、地域の中で輝いている大人の姿を見せることや、伝統文化や芸術について学び、多くの感動体験を重ねることが大切です。野球選手になりたい、学校の先生になりたいなど、夢や希望に満ち溢れたこどもたち。そんなこどもたちが個性を伸ばし、夢を実現させるためには、更なる成功体験を積んで自信をつけ、主体的に行動できるようになることが必要です。『自分を知ると、未来が見える。』当委員会では、こどもたちの柔軟な発想と純粋な心が引き出せるような場所を提供し、こどもたちの「さいしょの一步」を共に歩みます。それぞれの個性が輝き、多様性に富んだ未来をイメージできる。そんなワクワクが止まらない事業をわたしたちはつくります。この街の未来の為に 今私たちが出来ることを

04 販路拡大委員会 ・会員拡大・出席率の向上・会員育成・松山 YEG 会員の資質の向上を図る



委員長 青野匡起
青広(株)



副委員長 西野 悠
エコトラベル松山(株)



副委員長 小島有留実
三光貿易(株)

令和 6 年度販路拡大委員会は、今年度スローガン 《この街の未来の為に》～今私たちに出来ることを～ より当委員会としての抱けは、事業内容にも記載あります会員増・強と教育の二本柱で松山 YEG 会員の資質の向上を図ると共に、学びのある団体にしていくことであります。そのためには、この松山 YEG の設立事由や目的などを当委員会が率先して調査し、全会員とのつながりや存在価値を見出せるような委員会づくりをしていきます。そして、出席率の低い会員の参加を促す為に、他の委員会と連携協力しながら会員企業の事業紹介・会員との交流を創造します。それにより、松山 YEG に入会して良かったと思えるような青年経済団体となり、松山 YEG の存在が明確になる事で、会員増強と参加率の向上を実現させます。また、新入会員の時期からしっかりと松山 YEG とはどんな組織・団体なのか？という疑問を理解して認識してもらう為に、新入会員研修会を構築していきます。その結果、会員各々が松山 YEG の一員として誇りが持てるようになり、松山の未来を照らしていける団体となり、今私たちに出来ることを明確にして委員会事業を通じ、販路拡大に挑戦していきます。

05 広報委員会

・遊悠発刊・ホームページ維持管理・更新・所報及び YEG 情報発信の SNS 管理・更新
・松山 YEG の広報・ブランディング



委員長 野中佑也
(株)松山容器



副委員長 永木良尚
報道士&ジャーナル・ビジネスパートナーズ



副委員長 柿見祐人
(株)ウィルビー

令和 6 年度の広報委員会は「積極的な広報活動」を掲げ活動を展開していきます。内部への広報活動として、会員向けに各事業の協議・準備段階から情報発信をすることで、所属委員会以外でどのような事業や協議がすすめられているのかを知ることができ、各事業への積極的な参加の後押しになると考えています。外部（他団体や他単会、会員企業の従業員等）への広報活動として松山 YEG はこんなことしている、こんなことができる団体なのだを知る機会を情報発信という形でその魅力を伝えてきます。その為に HP や SNS の維持管理だけではなく更新頻度を増やします。それが松山 YEG の活動を広く知ってもらい松山 YEG のブランディングにも繋がると思います。入会の目的に人脉の構築や自社企業の発展に重きを置いている人は少なくないと思います。会員企業の新しいサービスや新しい商品等を情報発信することで会員間の情報共有は勿論のこと、各会員企業のお客様にまで届き新たなビジネスに繋がると思います。また、松山 YEG の会員情報についても発信をしていきたいと考えています。特に新入会員の方や入会年度の浅い会員の情報を発信することで松山 YEG の組織力強化に繋がるような広報活動を実施していきたいです。他にも、松山商工会議所が行うセミナーや商談会といった学びの場や最新情報等を発信していきたいと思っています。広報委員会の活動には上記以外にも年度 2 回の「遊悠」の発刊や松山商工会議所「所報」とどちらも内部、外部への情報発信となり、より魅力的に伝えるよう広報活動を展開していきます。松山 YEG の活動を広く知ってもらうには広報委員会の役割は大きいと思います。その役割を認識し「この街の未来の為に」～今私たちに出来ることを～のローグを広報委員会らしく「広報活動」を通して実現に邁進いたします。

06 サステナ委員会

・提言活動・親会報告会・松山市とのコラボ事業提案実施・市職員との意見交換会（風会議）



委員長 山本幸希
城東開発(株)



副委員長 道田香奈
みちだ行政書士事務所



副委員長 森悠
(株)テックアイエス

Sustainable(サステナブル)とは sustain(持続する)と able(～できる)からなる言葉で「持続可能な」、「ずっと続けていける」という意味です。持続可能な社会の実現は現在、世界中の人々が取り組み始めている共通の目標にもなっています。サステナ委員会でも松山商工会議所青年部（松山 YEG）のすべてのメンバーと共に持続可能なものを実現していきたいと考えています。YEG 事業を行う上で最も大切なことは、親会である松山商工会議所との連携です。松山商工会議所の歴史を知り、どのような事業をしているかを把握、理解した上で様々な事業に積極的に参加し研鑽に努め、協力していきたいと考えています。委員会活動としてはまず、松山商工会議所に YEG 事業をより理解してもらうために正副会頭及び専務理事との懇談会を開催し、令和 5 年度 YEG 事業、令和 6 年度に取り組もうとしている YEG 事業内容の報告を行い、事業のブラッシュアップを図ります。次に、令和 6 年度ローグ、この街の未来の為に～いま私たちにできることを～ひとつの大きなテーマとし、政策提言活動を模索するために松山商工会議所と協調しながら松山市の若手職員の方々と意見交換会（風会議）を企画したいと考えております。正副会頭及び専務理事との懇談会、風会議の開催、政策提言活動を松山商工会議所、他委員会と連携しながら松山 YEG 中期ビジョン 5G・VISION を念頭に置き一年間しっかりと活動していきます。最後に昨今、デジタル技術や AI（人工知能）が目まぐるしく発達していますが、私は最終的には人だと思っております。委員会、例会などの YEG 活動に参加することによってできる縁、仲間、そこからの仕事への繋がり、すべてがサステナブルになるよう尽力していきます。

07 交流委員会

・会員交流・各連合会及び会員との交流・各種大会の先導の為に各種大会の趣旨目的の調査、発信



委員長 日野暁登
(株)オートプロジェクト



副委員長 山本真士
オートランドコンサルティンググループ



副委員長 中野太一
株式会社万高開発

令和 6 年度交流委員会は、「交流」と「渉外」の 2 つの事業を担当させていただきます。交流、渉外共に「交流による成長」を軸に活動をおこなって参りたいと思います。私たちは YEG 活動を通して交流し、互いの考え方や背景の違いを理解や共感を経て、新たな視点や知識、情報を得ることで自らの成長とし、介して企業、地域、次世代を担う子供達の成長に繋がると思います。同じ時間を同じ場所で共有し、少しずつ信頼信用を高め合いながら人となりを知り一生を通じて共に成長していける関係作りの第一歩になれるよう努めてまいります。そのために松山 YEG 会員同士の交流はもちろんのこと、横のつながりとして各連合会メンバーとの交流、次世代の松山を支えていく子供たちを含めた家族交流、愛媛松山の四季折々の季節を感じることが出来る様々な交流事業を企画していきます。渉外では県大会、四国ブロック大会、全国大会のアテンドはもちろんのこと、各大会の関係者と情報を共有し、各分科会の濃い情報や、その土地ならではの情報を松山 YEG メンバーに伝え 1 人でも多くの方に参加してもらい、新たな気付きや交流を通じて研鑽の場となるようサポートしていきます。この街の未来のために交流委員会が出来ることを交流委員会全員で創造し、松山 YEG メンバーがたくさんの方々と「交流」することができ、「成長した」と思っていたけよう邁進して参ります。

08 with F 委員会

・会員企業のビジネス促進・ビジネス EXPO の継続・単会内ビジネス実績の調査・報告



委員長 向田伊之
(株)網元



副委員長 玉置慎介
(株)愛媛インフラ



副委員長 内田裕太郎
(株)キャンブネット

令和 6 年度 with F 委員会は、会員企業のビジネス促進を中心とした活動をおこなって参ります。With F の「F」とは今回、委員長の拝命にあたり、自分の想いと共感できる単語が多いので、この委員会名にしました。松山 YEG の仲間 (Friend) と共に、自由 (Freedom) な発想で、松山 YEG の仲間の為になる、又は学びになる事業を考えて愛媛で一番 (First) のビジネス事業になったね！と言って頂けるような内容を作り上げていきたいと考えております。そのためには委員会内での結束は勿論の事、内外から様々な意見を積極的に取り入れて作り上げていく事こそ、愛媛で一番の我々らしい事業を作れるのではないかと考えます。YEG の組織力や先輩方が築き上げてきた他単会との交流で得た関係性を活用させて頂き、松山だけではなく県内外にも発信し興味を持ってもらい、ビジネスチャンスに繋げる事を目指します。各会員企業が興味を持つビジネス内容は様々だとは思いますが、より多くの企業様が少しでも興味を持ち、足を運んでみたい、行って良かった！と言ってもらえるような内容にチャレンジしていきます。そして、私たちが日々 YEG 活動を行う中で、会員メンバーの家族 (Family) に対して松山 YEG がどのようなビジネス活動や地域社会に貢献をしているのかを知って貰える機会は少ないかと思っています。特に家族の中でも自分たちをより心配してくれている親世代には尚更だと思っています。YEG 活動を通じ自分達はこのような様々な仲間と知り合い交流を深めながら、地域の為に又はビジネスの為に力を合わせているという姿を見て知ってもらえるような場も作っていかれたと考えています。令和 6 年度ローグ「この街の未来の為に 今私たちが出来ること」を念頭に、仲間と共に考え、これまでに無かったような新しい視点や発想でより多くの松山 YEG の仲間や地域の皆様に楽しんでもらえるように、この街の未来の為に、今私たちに出来ることを精一杯努めていきます！